

研究課題名	腹腔鏡肝切除およびロボット支援肝切除における新規難易度評価システムの開発
研究の意義・目的	低侵襲肝切除は世界中で普及していますが、ロボット支援肝切除と腹腔鏡下肝切除の難易度評価システムはこれまでほとんど検討されていません。本研究はロボット支援肝切除と腹腔鏡下肝切除の新規難易度評価システムを作り、その有用性を評価します。本研究は、シンガポール総合病院に情報を提供します。送付方法はパスワードを設定した電磁媒体で E-Mail で送付します。
研究を行う期間	機関の長の実施許可日 ~ 2026 年 6 月
研究協力を お願いしたい方 (対象者)	2007 年 9 月~2023 年 12 月に大阪公立大学医学部附属病院の肝胆膵外科で腹腔鏡下肝切除もしくはロボット肝切除を受けた方が対象となります。
協力をお願いしたい 内容と研究に使わせ ていただく試料・情 報等の項目	診療の過程で得られた下記項目を本研究に使用させてください。 診療情報：手術情報、病理所見、診断名、年齢、性別、既往歴、検査データ、術後合併症
試料・情報の 提供を行う機関の名 称及びその長の氏名 (提供元について)	機関名：公立大学法人大阪 大阪公立大学 機関の長の氏名：理事長 福島伸一
提供する試料・ 情報の取得の方法	診療の過程で得られた診療情報
提供する試料・ 情報を用いる研究に 係る研究責任者	研究代表者：シンガポール総合病院 肝胆膵・移植外科 Brian K. P. GOH
試料・情報を 利用する者の範囲 および管理について 責任を有する者の 研究機関の名称	以下の機関が御提供いただいた情報を本研究に利用いたします。 【研究代表者】 シンガポール総合病院 肝胆膵・移植外科 Brian K. P. GOH シンガポール総合病院公式ホームページ (https://www.sgh.com.sg/profile/goh-kim-poh-brian)
本研究の	利益相反の状況については研究者等が利益相反マネジメント委員会に報告し、その

<p>利益相反</p>	<p>指示を受けて適切に管理します。 本研究に関連し開示すべき利益相反関係にある企業等はありません。</p>
<p>研究に協力を したくない場合</p>	<p>診療情報が当該研究に用いられることについてご了承いただけない場合には研究対象としないので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも不利益を受けることはありません。</p>
<p>連絡先</p>	<p>大阪公立大学大学院医学研究科 肝胆膵外科学 担当者氏名：新川 寛二 電話番号：06-6645-3841 メールアドレス：h-shinkawa9876@omu.ac.jp</p>